

平成 24 年 5 月 23 日

「ハイフミン ハイブリッド G」のイチゴへの施用効果について

日本肥糧株式会社

1. 目的

イチゴ栽培において、「ハイフミン ハイブリッド G」(有用微生物入り腐植質土壌改良材)の施用により、根張り効果による収量増加と、健全生育(土壌病害リスクの軽減)について評価試験を行う。

2. 試験概要

(ア) 試験場所 広島県山県郡北広島町阿坂 KF 氏 圃場

(イ) 試験指導 JA 広島市 山県営農事務所

(ウ) 試験規模 5a ビニールハウスのうち、1a を試験区 全面施用、混和

試験区:ハイフミン ハイブリッド G 15kg/ a

無施用区:施用無

(エ) 品 種 「レッドパール」

(オ) 定 植 日 H23.09.20.

(カ) 収穫期間 収穫開始 H24.1 月初旬 収穫終了 H24.5 月初旬.

(キ) 施肥および土壌改良材

基 肥 :NK ロング 180、ぼかし (土壌診断により P、Ca 蓄積)

追 肥 :

土壌改良材:

土壌消毒なし

(ク) 畝幅・株間:畝幅:120 cm、株間 25×35 cm 千鳥植え(マルチ)

3. 試験期間 H23.9.20.~H24.5.23. 調査日:H24.05.23.

4. 調査項目

1. 収量評価:生産者達観
2. 地上部重、地上部乾物重、根部生鮮重、根部乾物重、総根長など

写真1 H23年12月22日の状況



写真2 H24年5月23日(最終調査)の状況(収穫終了5月10日頃)



5. 結果と考察

(ア) 収穫後の地上部、根部調査

1. 平成24年5月23日に、試験区(ハイブリッド施用区)、無施用区において、平均的な生育の場所を選定、隣接する5株をまとめてサンプルとし、根部より掘り上げた。
2. 試験区と無施用区の比較の写真撮影(根洗い後)。
3. 分株、葉数、最長葉長、地上部生鮮重・乾物重、根部生鮮重・乾物重、総根長について調査した。

写真3 試験区(ハイブリッド G 区)・無施用区の比較写真(根洗い後)



表1 植物体調査結果

	ハイブリッド G 区	無施用区
分 株	3.0 (150)	2.0 (100)
葉 数(枚/株)	26.4 (126)	21.0 (100)
最長葉長(cm/株)	36.2 (101)	35.8 (100)
地上部生鮮重(g/株)	163.0 (128)	127.4 (100)
地上部乾物重(g/株)	35.1 (121)	29.1 (100)
地下部生鮮重(g/株)	36.2 (126)	28.8 (100)
地下部乾物重(g/株)	6.95 (125)	5.56 (100)
総 根 長 (m/株)	156.1 (143)	109.0 (100)

*)5株の平均値。()内は無施用区を 100 とした場合の指数。



写真4 ルートスキャナー
(根長測定器)

(イ) 考察

- ・ 最終調査時の観察(写真 3)で、ハイブリッド G 施用区は、葉長(地上部の高さ)で無施用区と余り差が見られなかったが、根量が施用により増加したことが認められた。特に、根鉢の肩の部分に細根が多いことが観察と調査結果(生鮮重、乾物重、総根長)により明らかとなった。これは、定植後の活着、および、その後の根の伸長が良かったものと思われた。
- ・ 地上部についても、最長葉長(草丈)はどちらの区も差は無かったが、ハイブリッド G 区の方が、分株数、葉数、生鮮重、乾物重の何れも大きい値となっていた。
- ・ 収量については、区を分けて収穫時毎に重量は調査できず、数値は得られなかった。終了調査の測定値よりハイブリッド G 区の方が草勢旺盛で収量にも寄与したと推察された。

以上